

出雲の未来を切り拓く しなやかでたくましい人づくり

地域の
特色ある
活動

島根県出雲市教育委員会

1 はじめに

出雲市は、平成 17 年（2005）3 月に、出雲市、平田市、佐田町、多伎町、湖陵町、大社町が新設合併し、また、平成 23 年（2011）10 月の斐川町との合併により、「新しい出雲市」のまちづくりをスタートしました。この 2 市 5 町の合併により、人口 17 万 5 千人、624.13 km²の市域となり、多様で恵まれた自然環境、交通基盤、産業、医療、福祉基盤などを有する極めて高い発展性のあるまちとなりました。近年は、地元企業の働き手を中心とした外国人住民が増加しており、その人口は 4 千人を超えています。家族で転入し、定住する外国人も増加傾向にあるため、日本語指導を必要とする児童生徒も増加しており、指導体制の整備や教職員の研修機会の充実等に力を入れています。

本市では、平成 28 年 9 月に「出雲市総合教育会議」において策定した「出雲市教育大綱」に掲げる「家庭・地域・学校で育む出雲の教育～出雲の未来を切り拓くしなやかでたくましい人づくり～」を基本理念に、その趣旨を踏まえた第 3 期出雲市教育振興計画等を策定し、学校教育に特化した様々な取組を展開しています。

2 教員育成の取組

第 3 期出雲市教育振興計画における施策の 1 番目に「確かな学力の定着と向上」を掲げており、その方策として、「ふるさと・キャリア教育の充実」や「ICT 活用教育の推進」

など、学校だけでなく、家庭や地域、関係機関と連携した教育を推進することとしていますが、児童生徒の学力の定着・向上のためには、「質の高い授業への改善」が不可欠な要素であり、本市教育委員会では「教員の授業力の向上」に特に力を入れています。

本市教育委員会では、「第Ⅱ期出雲市学力向上推進プラン」を策定し、「^{プラスワン}『+1 する出雲の子ども』を育てる～みんなで徹底して～」をキャッチフレーズに学力向上に取り組んでいます。そして、この中で、教員を対象とした「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業づくり・授業改善等に関する研修^{プラスワン}「+1 講座」を実施しています。講座のテーマは毎回異なり、これまでに、「居心地のよい学級づくり」「ペア・グループによる効果的な『学び合い』」「思考力・判断力・表現力を育成する『要約学習』の実際」「『協調学習』の理論と実践」「学びを支える体（体幹）づくり」といった多岐にわたる内容で開催しているところです。

また、「質の高い授業への改善」「教員の授業力の向上」を図るための更なる方策として、「教育指導員の配置」があります。これは、教育行政の経験がある元校長 2 名を本市教育委員会に配置し、学力向上全般（各種教科指導、授業改善、生徒指導や特別支援教育なども含めた学級経営及び学校経営）に関する学校訪問指導（各校年 4 回以上）や研修会を通して、組織的な学力向上推進を図ることを目的とした取組です。こうした取組を進めるに当たっては、本市教育委員会と、校長を

はじめとした学校現場の教員が同じ方向を向いて一体となって進むことが重要であると考えています。

3 個別の配慮が必要な児童生徒への教育の充実

学習や生活上において困難を抱え、特別な支援を必要とする児童生徒は、近年、個人の価値観の変化やライフスタイルの多様化に伴う社会情勢の変化などにより、全国的にも増加の一途をたどっており、本市も例外ではありません。本市教育委員会では、こうした児童生徒の進路の保障や社会的自立のためのバックアップ体制を構築すべく様々な取組を行っているところです。

特別な支援が必要な児童生徒やその保護者への支援を強化するため、本市教育委員会には、学校の特別支援教育に関する指導助言や就学相談を行う「特別支援教育指導員」や、「心理相談員」を配置しています。また、「特別支援教育補助者」「特別支援介助者」を小・中学校の教室に配置し、特別な支援や介助等が必要な児童生徒一人一人を大切にす学校づくりを進めています。

また、市内の小学校6校、中学校5校に設置している通級指導教室で担当教員とともに指導を行う「通級指導ヘルパー」を配置し、通級指導の充実をめざしています。この指導を円滑に行うため、本市教育委員会には「通級指導教室指導員」を配置しており、入級に伴う状況把握と、児童生徒の在籍校と通級指導教室設置校との連絡・調整を行っています。

令和元年度から本市教育委員会が新たに取組を開始した事業として、人間関係づくり・対話力育成事業（通称「だんだんプロジェクト」）、「だんだん」は出雲地方の方言で「ありがとう」を意味します。）があります。これは、発達障がい等に起因する「ソーシャルスキル」に関する児童生徒の困り感に着目したもので、週に1回10分間の「短時間グループアプローチ（だんだんタイム）」を時間割の中に設定し、「ソーシャルスキル」の向上

と、よりよい学級集団づくりを行うことによって、困り感の改善・克服や自己肯定感の向上を図り、不登校・いじめ等の未然防止を図ることを目的とした事業です。初年度はモデル中学校区4校で事業実施したところですが、今年度は更に8校がチャレンジ校として取り組む予定で、成果を検証しながら取り組む学校数を増やしたいと考えています。

「1 はじめに」で記載したとおり、本市は島根県の中でも抜きん出て外国にルーツのある子供が多い都市です。右肩上がりに増加する日本語指導が必要な帰国・外国籍児童生徒が、日本語で生活・学習ができるよう、「日本語指導員」「日本語指導補助員」「通訳・翻訳支援員」といった人材を配置して一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行っています。特に、来日間もない児童生徒の対策を抜本的に図ることとして、昨年度、「日本語初期集中指導教室」を開設し、初期の日本語指導や学校ルールの指導を集中的に行っています。1か月間「日本語初期集中指導教室」において日本で生活するうえで必要な日本語や、日本の学校におけるマナーなどを学んだ後に、それぞれの在籍校へ通学します。

4 おわりに

このほかにも、働き方改革推進のための様々な取組や、学校の再編など、子供たちを取り巻く教育環境の急速な変化に対応すべく取組を行っています。

今後も、「出雲市教育大綱」の基本理念「家庭・地域・学校で育む出雲の教育～出雲の未来を切り拓くしなやかでたくましい人づくり～」に常に立ち戻り、出雲市の教育にまい進していきたいと考えます。



教育長
杉谷 学